

社会道徳実験教室

家族をテーマに心の成長を学ぶ 考えることは「心の体操」

好きなものや大切なものなどを紙に書きだす参加者ら(=みっくす)



家族をテーマに描いたアニメから登場人物の想いを考える「みんまで社会道徳実験教室」が1月21日、みっくす(小久保6)で開かれた。相生学院明石校の尾池良一校長(63)が講師を務め、1年〜4年生の小学生と明石北高、明石南高、相生学院明石校の高校生ら17名が参加。社会道徳を一緒に考えようと小学生と高校生がペアになり、ワークショップ形式で授業が行われた。

最初に、「好きなものごと」、「なくしたくないものごと」、「たいせつなものごと」から思

いついたことを、一人ひとり紙に書き出し発表。さまざまな意見が出る中で、この日の授業のテーマ、家族と、何人かが書いていた。今回の授業で取り上げられた短編アニメには、父と娘が登場する。約8分間のアニメ映像からは哀愁漂う音楽だけが流れ、登場人物の声はない。登場人物の姿や風景など、アニメのストーリーから月日の流れや登場人物の成長を感じとりながら、それぞれアニメの感想を考えた。最後に、娘と父が巡り合った時の会話を想像して書き出し、他の人が考えた会話と組み合わせ、父と娘の会話が成立するかを試したりした。

父と娘が再会した時を想像し、小学生と高校生がそれぞれ考えた父娘の会話を組み合わせ発表する様子



になりました」と、それぞれ感想を話した。
尾池校長は「ふり返りで考える事で、心の成長をワークショップで体感できる。それぞれの立場で理解する事が大事。生きるという事に繋がる」と話している。